

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	(有限会社)ユースフル	評価実施年月日	平成20年 2月29日
評価実施構成員氏名	1階(彦星) 奥村 めぐみ・多喜真弓・高橋利枝・鳴海幸乃・斉藤ますみ・荒木和美・岡川理恵・和崎久美子		
記録者氏名	奈良岡 智子	記録年月日	平成20年 3月 1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当ホームの理念にも入っている「地域」・「尊厳」理念に関しては、確実に実行、今後も、理念に添って新たな目標も入れて行こうとスタッフ一同頑張っている。	○	今年で5年を迎える事もあり、より良い理念を思考中。当ホームは同区の入居者様の割合が7割に達しているので、ご家族様の来訪も多く、今後も地域の方々との密度を深めて行きたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	各フロアー、スタッフルームに理念を添付、常に理念の初心を忘れないように取り組んでいる。		上記同様、今後も基本に基づきホーム全体で取り込んで行きたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族の方々には、来訪時、家族会などの時にお話し、地域の方々には、町内会に加入、気軽に来訪出来るよう取り組んでいる、	○	町内の会合の時など、認知症キャラバンメイトの講習などを行い、当ホーム(グループホーム)の役割などを広めている。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	上記同様、朝はホーム前の掃除時、隣近所の方々と一緒に言ったり、運営推進会議への参加など、声かけし、回覧板が回ってきた時には、立ち話など、オープンにしている。	○	近隣の人たちとの交流、又、駅の案内板に掲示されている事から、徘徊され、困っている方の連絡を受け、徘徊110番などへ連絡したり、協力しあっている。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の花壇の担当、清掃などへも参加し交流には努めている。他、子供110番の家にもなっている。	○	町内会の方からの、ボランティアの申し出などで、日舞、オカリナなど演奏に来て頂いている。今後はホーム側から、保育所、幼稚園などへの交流も深めて行きたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の民生委員の方、町内の役員の方々とは話し合い、近隣の独居生活の方、又高齢者世帯の方々の実情に対して、出来るだけ協力して行きたいと話し合っている。	○	プライバシーの範囲内で、時々独居の方の情報交換はしているが、連絡が密に出来るように今後も取組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>毎年実施、場合によっては6ヶ月後に見直しをかけ、玄関ホールのテーブルの見やすい所へ置いている。又指摘された所については改善に対して取組んでいる。</p>	○	見直しをしてみると、まだまだ未熟と思える事もあるが、スタッフ全体で効率よく出来ていけるように工夫していきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>ホームに対して、又サービスの内容を検討し、次につなげられるようにしている。</p>	○	これからも地域の人たちの意見を聞き取り入れていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村の担当者とは、会議・電話などで常に連絡を取り、様々な中で活かしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	今後も出来る事に対して拡大して行きたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者は、成年後見制度について、研修、講習などへ参加、地域権利擁護事業も採り入れ、活用できるようにしている。(制度を利用している方もいるので周知の徹底して行きたい。)</p>	○	現在利用している方だけでなく、他のケースが出てきた場合にたいして、制度を熟視し高齢者の権利擁護について意識を高めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者・職員は虐待防止の講習・勉強会などに参加、あつてはならぬ事として防止に努めている。</p>	○	電話での相談を受けた事があるので、今後も少しでも役に立つ事が出来るように、意識を高めていきたし。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時はもちろんの事、時間をかけ説明、退去時にも退去契約書に退去理由を記入し、十分な説明の上、話し合い理解・納得をいただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談、苦情の窓口を設置、ご家族様にも気軽に利用して頂けるように反映している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	暮らしぶりや健康状態は来訪時、ケース記録等を通して見ていただいたり、主治医からの指示があった場合も定期的にお知らせしている。金銭管理に関してはお預かり金の個人のノートを見ていただき、その都度確認のサインを頂くなどして実施している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の意見は随時話を聞き可能な限り対応している、またご家族様を通して本人の意見を把握して頂けるように働きかけている。また、ご家族様から第三者機関へ相談・電話し相談できるように、相談窓口をお知らせしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニット会議を行い、各スタッフの意見を聞入れる場を設けている、又月1度のホーム全体会議もあり、連絡ノートも活用している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	経営者も含め、ホーム全体で入居者様の状況を把握・調整し確保できるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動・離職は必要最低限にしたいが、寿退社、家族の都合などで起きた場合はそれぞれにあった入居者様への対応に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修には出来る範囲で行かせている、</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は、他の事業所の管理者と連絡を取り合い、情報交換・コミュニケーションをとるようにしている、又他のホームのスタッフが見学(各自の向上アップのため)来るなどしている。</p>	<p>○ 区内の管理者連絡会の時などスタッフの参加できる機会を出来るだけ多くスタッフの向上にもどんどん努めて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフミーティングで各自の意見を話したり、各自のケアプランを作成、休憩時スタッフルームではゆっくりとくつろげるよう工夫している。又個人面談などを通して努力している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>入居者様に対してどういうケアをしていくのか、していきたいのか、サービス提供に対して入居者様本位を各自向上心を持って働けるように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人からの訴えが出来ない方もいるが、仕草・表情から読み取る努力をし、訴えが出来る方からは、さりげなく会話に入り聞くように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームに来訪された際など、困っている事などをお聞き氏必要に応じて受け止めるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期段階で、ご家族・入居される本人がまず困っている事をお聞きし、どう支援して行くか、入居前までに対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前本人・ご家族様に何度かホームへ来ていただき、ホーム内を見学していただき、又ご自宅へも(場合によっては病院)訪問し、どのような暮らしをされていたのかなどよくお聞きし、入居者様達とお茶の機会を持っていただくなどして工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご家族様より得た情報などを参考にし、本人が緊張しないで住む環境づくりに努力している。又高齢者の方と云えども、私たちが逆に学ぶ機会も多いので、良い関係作りに励んでいる。	○	私たちスタッフ側がケアしているという事よりも、常に見られ教わる事の多さに感謝してと、いつも話しあっている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の方々より、より多くの情報を得、その中から多くの事を知る事で一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様からご本人との関係等についてお話を聞いているが、これからどう支援していったらより一層よい方向へ迎えられるのか話し合っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な限り関係が維持されるよう働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様一人一人が他の入居者様への思い等、関係性の把握に努め、各居室・居間・台所など空間を有効活用しながらお互いに不快な思いをしないように努力している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても、必要に応じて連絡し関係を断ち切らず支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望を聴き、可能な限り添える努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様や以前利用していたサービスの内容から各入居者様の馴染みの暮らしの把握に努めている。	○	在宅にて何のサービスも受けた事がなく、情報の少ない入居者様に対して又、独居のためご家族様からの情報も少ない方々への対応策を思案・模索中である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	出来る事、出来ない事を日々洞察し、ご本人が無理なく1日を楽しく過ごせるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時はスタッフ間のカンファレンス・ご家族様への提示、その際はどのスタッフでも説明できるようにし、ご意見を伺いながらの再度の作成(ケアマネージャー中心に)と過程を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	随時見直しは行い、ご家族様にも承諾をいただき、意見を取り入れている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人一人のファイルには記録、介護計画にたいしての評価欄を設けており、実践の結果や気づきを記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	心がけてはいるが、今のところこれと言ってしている事はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方々の受け入れや、消防の協力をえたりしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今の所他のサービスを利用するための支援はしていないが、他のサービス事業者と話し合いの機会は設けるようにしてはいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護・ケアマネージメント等について協働・利用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームの看護師とかかりつけ医		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	年に1度かかりつけの脳外科受診(MRI)などで、進行の状態など適切に支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保している、又協力医療機関とも24時間の連携が取れるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医の紹介で入院する医療機関がほぼ決まっているので、認知症についての理解が得られている。また出来るだけ長期入院にせず早期の退院を入院先の主治医とも情報交換など常にとれるようしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族様からご本人の希望を前もって聴いていただき、ホーム側・主治医・ご家族様全員で立会いの上状況に対処できるように方針を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医との連携をとりながら、ホームで出来る事はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族様、他情報に関しては、出来る限り情報を得る努力をして、再アセスメントをしてその人のらしさを活かせるようにダメージ防止に努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報が必要以上に出す事はせず、本人のケアに必要であり、又本人の為と思われる時以外は使用しない、さらに入居者様一人一人の言葉の受け止め方を十分把握し言葉かけを行なうように対応している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉として訴える事が出来ない方には、洞察力を深める事で仕草、表情などから汲み取り、又自分の気持ちを伝える事が出来る方々には本人の希望を聞きながら出来る事は可能な限り対応している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>決まっている事は朝・昼・夜の食事の時間(※但し出来上がり次第なのでおおまかな時間)、居室に戻って過ごされる方、ソファーで傾眠されるかた、テレビを見ている方、様々、体調や不安感のないように出来るだけ個別支援をしている。</p>	○	<p>月に2度書道の先生が来て季節に応じた文字を書いて楽しんでいただいている、出来ないよといいつも最後名前を書いた時の満足度、『私よりあの人の方が上手だね』など、今日は習字の日だねと伝えると朝から待たれる方もおり、今後無理にならない程度に他の事も思案中。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者様によっては、訪問理美容を利用される方もいますが、ご家族の方と外出し、行きつけの美容院でされる方、ホームへ来てカットされるご家族の方など様々です。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食器はほとんど陶器、色・形なども様々にする事で、盛り付けの工夫など入居者様と話しながら楽しく食事作り、あと片付けなどしている。他嫌いな食材があった方でも、切り方・味付けなどの工夫で食べていただけるようになった事例もあり。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在当ホームではタバコ吸われる方、飲酒を希望される方はいらっしゃいませんが、昔好きで飲んでいただと話されていた方で、外食(お鮨)時など、ビールを飲まれる事もあります。おいしいと言いながら飲まれる笑顔は最高ですね。おやつに関しては、お預かりする事もあり、居室内の冷蔵庫内に入れて楽しまれていたりです。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツ使用の方々には、あるメーカーに変更後交換の頻度を減らす事でトイレ誘導からの心の快方につながる事が出来たと思う、スタッフが楽になったとかではなく、排泄パターンによる時間誘導がその時々でストレスにも繋がっていたかとも思います。又軽失禁の方で、誘導時間を見極める事で紙パンツから布下着へと変わった方もおります。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	その月の行事・催し物などによっていちをは入浴曜日は決めるが、一人一人の希望、タイミングをはからい、行なうように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調、各入居者様の生活リズムによって、お昼寝、又夜の就寝時間もまばらで心地よく休んでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご家族の方々から得た情報と入居者様の意見を取り入れ各役割、仕事をして頂いても楽しみを持って過ごしていただけるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人、ご家族様と良く話し合い、希望に添って本人管理(高額にならない範囲内で)したり、買い物時には、各自の趣向に応じて楽しんで頂けるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は外出回数も少ないが、春・夏・秋など、季節に応じてホームの回り、ホーム裏への洗濯物干し、近郊の公園など、出来るだけ、外出機会は多くしている。	○	今ある、ホーム周りの畑だけではなく、近郊に少し大きな畑を作り、入居者様方に、沢山の野菜作りを楽しんでいただければと試行錯誤中。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	各月ごとに担当者を決め、入居者様の希望も取り入れドライブがてら、季節に応じた所へ行ったり、ご家族にも声かけし参加して頂き食事会などへもなるべく多く機会作りをしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望があったら、使用していただき(スタッフ介助の上)、手紙に関しては、ご自分で書けない方にも、名前だけでも記入して頂いたりして、スタッフ代筆の上お元気でいる事などお知らせする機会を設けている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族などの訪問は比較的多く、催し物時なども来て頂いたりし、いつでも気軽に来訪できるようにしている。	○	来訪時季節に応じて、飲み物など、(冷・温)など工夫してはいるが、今後ミニ喫茶店のような場所をもうけたいと考えている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はなし。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	当ホームは、開設事の一時のみ日中施錠していましたが、朝8時前から夕方19時まででは施錠していない。	○	施錠している時は、外に出たいと執着する方もおりましたが、施錠せず、いつでも出られる事で、逆に玄関までは来ますが、無断で出る事がなく、逆転の発想と考えております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居間において過ごす方が多く、居室へ戻っても、何処に何時に何をしているのか、さりげなく把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各居室の置物、高さなど、入居されている方々のADLによって危険防止に取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット、他事例を通して朝の申し送り後などに話し合い、緊急対応マニュアルを作成事故防止に、取組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	上記に加え、看護師からの連絡、医療連絡ノートに現状、内容などからの情報を、緊急時の対応にどう活かすか、話し合い行なっている。	○	救命救急の講習は現在全員は受けてはいないが、今後全員がマスターする予定。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災に対する避難訓練は、実際的に入居者様全員で行なう事は無理なので、スタッフ間で工夫し行なっている。定期的に来ている消防署の方々ともどうすれば良い誘導とか話し合い参考にしており、町内会の役員の方にも働きかけてはいるが、実際の事を想定して見ると協力関係はこれからもっと働きかけていかなければと感じている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	軽度から重度へ又症状の変化に伴い処方薬の変更時は新たにご家族の方々でも判りやすいノートを作り、その都度説明理解して頂けるようにした。その上でリスクに対しても説明当ホームの意見もお伝え話し合うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入浴時の全身確認、毎日のバイタルチェックで体調の確認、変化の有った時は、全員が把握出来るように、ケース記録・連絡ノート等で情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者様が内服している処方箋をケース記録に保存、内容が変わった時にも、連絡ノートで確認するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排便チェック表を確認、副食に食物繊維の多い食材を取り入れたり、個人個人に合わせた運動を取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・昼・夕(食後)、の歯磨き、就寝前の義歯浸けおき、歯科衛生士さんによる、口腔ケアなども受けている方もおり、力を入れている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれの方に合った量、切り方、好みに応じてなど、工夫している。水分量は毎日チェックし、好まれる種類の物も取り入れ水分の調節を行なっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年行ない、他血液検査はその方々によって、定期的な採血。手洗いうがいの徹底、台所への入室(調理時)は履物・エプロンを換えるなど徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は2日分位で食べきる量を購入、他昼食後には毎日、まな板、布巾の漂白。台所は毎日掃除、換気扇も月2度程度の洗浄など気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの玄関・裏口・にはわかりやすく名前の掲示、他手作りの看板など設置。季節に応じてホーム周りの花々、冬季クリスマスにはイルミネーション等飾るなどしている。又玄関内には季節を感じて頂けるように、タペストリー・人形・他飾り物等で工夫、来訪者の方々にも心地良さを採り入れている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	上記同様、生活感、季節感は工夫している。他、照明にも気配り、食事中は音楽を低く流しゆっくりとした中で食べていただくなど、配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	昨年、ホーム一部改装した事により、6畳の和室、が出来「畳はいいねー」と入居者様には好評、気の合う同士で百人一首などをされたり、居室で俳句を作ったりされ、スペース的にはさほど広くはないが、工夫はしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、ご家族様にはなるべく使い慣れたもの、見慣れた物を居室にとお話ししているが、自宅に帰宅(外泊時)のためにと、新しい家具などを購入されるご家族様も多い。しかし、好みの物や何かなれ親しんだ物の持参をお願いし、安心感を持って過ごしていただけるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除時に、各居室は換気、ホーム内は暑すぎないように、洗濯物・バスタオルなどを利用し、湿度対策、温度・湿度調節はこまめにしている。トイレなどは朝・失禁等で汚染した時にすばやく清掃し空調にも気配りしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>それぞれの入居者様の体調にあわせ廊下、歩行器、2階への階段手摺を使い歩行訓練などに活かしたり、ソファ、飾り棚などはあるが、歩行の邪魔にならない程度に配置し安全対策には、心がけている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>センター方式を参考にし、出来る事への支援を工夫、混乱時はスタッフ同士で協力し穏やかに過ごしていただけるようなど配慮している。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>季節にはよるが、ホームの回りに季節に応じた飾りつけ、野菜・花壇などを作り、狭いながらも楽しんで頂けるように配慮している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ②

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
 ・入居者様の日々の暮らしを支えて行く中で、ホーム全体として、スタッフ間の横のつながりを持ってお互いを支えあう事でよりよいケアが出来ていると思います。ご家族と離れ、中にはご家族様が来ても解らない重度化されている方また、ご家族様が来られるのを待っている方、ご家族様の代わりは出来ずともまご心込めた支援をこれからも続けて行きます。『“私はこの人”と巡り合い、この人が好きだから、この人と一緒にいて、この人と何かをしたいと思うようになる』※これがお年寄りから引き出された職員の個性で有り主体性であり、お年寄りにとっての最高の幸せにつながる。・・・ある本より抜粋。星の家の目標。